

3年度決算 一般会計・特別会計合計で 269億5,630万円を支出

税金がどのように使われたのか—令和3年度の決算は、9月14・15・16・20・21・22・26・28日の8日間、決算特別委員会を開催し、審査しました。同委員会では一般会計と2特別会計、3企業会計を原案のとおり認定すべきものと決定。第3回定例会最終日の9月30日に本会議で全ての決算が認定されました。

令和3年度各会計の決算額				
会 計 名		歳入(収入)	歳出(支出)	
一般会計		240億5,346万8,919円	234億4,904万5,800円	
特別会計	国民健康保険(事業勘定)	32億9,868万9,377円	32億1,556万5,180円	
	後期高齢者医療	2億9,212万9,246円	2億9,168万9,898円	
	小 計	35億9,081万8,623円	35億 725万5,078円	
企業会計	水道事業	収益的	5億4,429万9,164円	4億8,716万1,376円
		資本的	2億4,047万 37円	4億4,072万6,153円
	下水道事業	収益的	11億2,396万 289円	10億3,296万 370円
		資本的	4億1,349万4,363円	8億 90万4,238円
	病院事業	収益的	17億7,831万2,821円	16億4,388万8,764円
		資本的	1億7,379万6,000円	2億 15万8,233円

決算特別委員会の主な質疑と意見

Q 一般会計歳入の固定資産税について、未収入済金額がいつもより多いと感じるが、令和2年度分の徴収猶予した法人が多く、3年度の滞納繰越分で計上されているためである。3年度は、大口の2つの法人が引続き徴収猶予の申請をしたため、その分が未収となっている状況である。

A (委員会の意見) 万が一、倒産になると徴収できなくなるので、差し押さえなど、建物に対する法的手続きに関しても、しっかり準備するべきである。

Q 旧西根総合支所を年間440万円でJAに貸しているが、西根総合支所が旧JA西根支所に移る話が進んでいない。今年度予算で移転先の土地建物購入費が計上されたが、開所はいつ頃になるのか。

A 移転については、来年度に設計、6年度以降に設計に基づき、建設を進める予定で、早ければ6年度末頃となっている。

Q (委員会の意見) 大更の中心部の方たちからも、移転を待ち望む声を多く聞く。2年も待つとなると問題だ。補正対応するなど工夫し、ぜひ早く進めてほしい。

A 移住者を増やすために、ホームページの工夫が非常に大事ではないか。八幡平市への移住について検索すると、最初に表示されるのが空き家の情報である。これでは移住促進にならないのでは。

A 空き家バンクは、移住定住施策の一つである。空き家を購入した方には、改修補助金の制度もあり、それを望んでいる方もいる。空き家バンクが検索の一番に出てくることについては、研究していく。

Q (委員会の意見) 移住者にとって、八幡平市に住んでどんな生活ができ、生活がどう今まで以上に豊かになるかが大切なため、重点を置きアピールしてほしい。

A 田山スキー場の用地を購入する時、新しいスキーコースを造ると説明があったが、進捗状況は。

Q 造る予定で総合計画にも整備事業として入れて検討しているが、細かい積算がまだ、ということである。

A (委員会の意見) 整備計画と併せ、整備後の活用方法もどうあるべきか方針を定め、しっかりと進めていくべきである。



追加コースの整備が期待される田山スキー場

A 出合い支援事業について、支援ができる方を地域おこし協力隊として募集するなど、積極的に事業を推進してもらえよう工夫するべきである。

Q 敬老事業について、今年度から行政区の対象者名簿を貸与する対応をしたが、昨年度の実施状況、取り組み状況と今後の在り方について伺う。

A 昨年度は43団体が実施し、祝い品贈呈事業は34団体、つどい事業は3団体、両方実施は6団体だった。今年度は、現時点で29団体に交付決定したところである。



「元気・はつらつ・健康長寿」両沼公民館敬老会

A (委員会の意見) 自治会の無い所では、敬老事業が行われないため、75歳以上の方全てが何らかの形で参加できる事業にしてほしい。

Q 市道両沼松子線は、大更駅前へつながる重要路線である。踏切を拡張できないか。JRの受託事業として市から負担金を支払い、お願いしている。順次協議を進める。

A (委員会の意見) 早期に整備を着手していただければ、改めて市から強く要望するべきである。

Q 道路軽舗装整備事業については、予算額を増額する必要があるのでは。

A 他の過疎対策事業と調整し、優先順位を付けながら進める。

Q (委員会の意見) 市民から特に要望がある事業なので、予算を増やして整備を進め、要望に応えるべきである。



一刻も早い踏切の拡張工事を望む(松子踏切)

質問した事項

羽沢 寿隆 議員（八起会）…………… 6

- ・人口減少問題について
- ・長引くコロナ禍および全体的な物価高騰による市民生活、事業経営への負担増について

渡辺 義光 議員（市民クラブ）…………… 7

- ・花輪線の魅力発信と利用促進について
- ・文化財を活用した認知症予防・回想法について

立花 安文 議員（八起会）…………… 8

- ・市職員の副業について
- ・大更駅周辺以外のまちづくり事業（ハード事業）の取り組みについて
- ・旧細野小学校跡地から細野コミセンの施設までつながる山林について
- ・児童が遊ぶ広場の整備について

工藤 直道 議員（自由クラブ）…………… 8

- ・市職員の定年について
- ・自然休養村（なかやま荘）、周辺公共施設・公有地の有効活用について
- ・大雨による被害について
- ・大更駅前顔づくり施設について

工藤 隆一 議員（八起会）…………… 9

- ・交通安全対策について
- ・田頭館山公園の管理について
- ・新型コロナウイルス感染症について

井上 辰男 議員（八起会）…………… 10

- ・集中豪雨などによる被害について
- ・ハロウィンターナショナルスクールとの交流について

高橋 悦郎 議員（日本共産党）…………… 10

- ・大更駅周辺開発について
- ・ごみ処理広域化について

古川 津好 議員（松西会）…………… 11

- ・大更駅前顔づくり施設について
- ・提案責任と議決責任について
- ・安比地区への市の支援について

熊澤 博 議員（自由クラブ）…………… 12

- ・新型コロナ感染拡大への対応について
- ・限界集落からみた回帰・移住の対策について

齊藤 隆雄 議員（日本共産党）…………… 12

- ・高校等の通学定期代の補助率拡充について
- ・農業支援について
- ・防災行政無線について
- ・市有地の有効活用について

工藤 多弘 議員（松西会）…………… 13

- ・大更駅周辺開発および大更駅前顔づくり施設について
- ・災害時おけるマンホールトイレ設置について



はざわひさたか
羽沢寿隆 議員

（八起会）



人口減少止める手立ては

出生子育て対策の充実



八幡平市に明るい未来を

問 人口減少は重要問題である。当局の見解は。

市長 重要問題として認識している。何度も国や県とも協議している。

問 ハロウ安比校の生徒や職員は、外国人がほとんどであるが、台湾有事などの問題が起きた場合の対応は。

市長 有事の際は関係する国の方々の情報もハロウ側から聞きながら協議したい。

問 外国人に頼らない人口対策が必要である。家族を基本とした、さらなる子育て世帯への支援が必要では。

市長 出産祝い金50万円給付は他より手厚い支援である。

国や県とは違う子育て支援策をさらに強化していく。

飼料高騰による農業経営の悪化

問 このままでは農業を辞めざるを得ないという農業者もいるが、対策は。

市長 飼料などの仕入れに

対し、10%補助を考えている。他の事業者には、一律10万円補助を実施している。

問 農業者の安定収益確保のために安比ハロウスクールのために米などの市産食料を優先的に使用するよう働きかけてはどうか。

市長 ハロウ安比校には、

すでに要請しているが今後継続して働き掛けていく。

問 燃料高騰により、来るべき冬に向け、市民生活や事業経営に深刻なダメージを与えかねない。対策は。

市長 コロナ対策臨時給付金の活用も考え、国や県との協議を重ねていく。



わたなべよしみつ
渡辺義光 議員

（市民クラブ）



花輪線の魅力と利用促進

沿線自治体と連携し推進



大更駅で始発を待つ高校生たち

回想法で健康長寿

問 昔の生活道具や写真などを活用して語り合う回想法は認知症予防に効果がある。

市長 認知症高齢者は、5年間で114人増加。レク活動や博物館の活用などで回想法を積極的に進める。

問 JR東日本は地方路線の収支を公表した。花輪線好摩〜荒屋新町区間は、年間8億5500万の赤字。

一日当たり230万円、一運行15万円の赤字となる。同社は、駅設備や除雪費用などの自治体負担を想定している。市長の対応は。

市長 花輪線は当市の公共交通の核となる重要路線であるが、車社会、少子化により通学や通勤者が減少し乗車人員が年々減っている。

JR、国、県と沿線自治体で構成している「花輪線利用促進協議会」が連携し、取り組みを強化していく。

問 花輪線沿線には岩手山などを望む四季折々の景勝や荒屋新町駅の転車台など全国に誇れる文化財がある。

安比高原駅前にはハロウ安比校が開校した。市内12駅を拠点にしたフットパスなどを設定し花輪線の魅力を国内外に発信してはどうか。

市長 駅を起点にし、街並みや地域の文化財、景観を楽しむながら歩いて回るフットパスは、地域資源の活用や魅力向上につながる。

観光振興、まちづくり活動である。地元を知りまちな魅力を語るガイド養成とルート選定を推進していく。



たちばなやすふみ
立花安文 議員
(八起会)



細野地区のまちづくり

開発動向などを考慮して



綿帽子の里づくり計画書

問 細野地区には34年前に策定した「綿帽子の里づくり計画書」がある。この計画書に基づき旧安代町時代に道路などのインフラ整備を実施した。計画書には将来の夢が集約されており、現在も地区内の土地を活用する際の指針になっている。

また、昨年8月には国土交通省からスマートインターチェンジの新設準備段階調査に着手する旨の発表があった。これを契機に細野地区の第2期まちづくり事業の実施を希望する。

要望、開発動向などを考慮しながら検討する。
問 地区からは、もう一回地域づくりにチャレンジしたいという意見が出ている。企画財政課長 この地区はさまざまな事業が展開される見込みがあることから、状況によって判断すること

になる。
安代地区に児童が遊ぶ広場の整備を
問 安代地区には、児童を遊ばせる場所が無いことから、休日に子どもを遊ばせる場所に苦労をしている。小規模でも児童が遊べる広

場が必要では。
市長 安代地区には、遊具を設置した公園が無いことから、子どもが成長する場の提供という面と遊具の安全性の確保という両面から設置の在り方を検討している。



くどうなみち
工藤直道 議員
(自由クラブ)



市職員の定年条例改正は

12月定例会へ提案予定



令和3年度の退職者辞令交付式

問 定年を65歳に延長する改正国家公務員法が来年度に施行される。八幡平市職員の定年条例改正は。
市長 12月の第4回定例会へ提案を予定している。

市長 組織の新陳代謝の確保、組織活力維持のため役職定年制を導入予定である。
問 職員の高齢層比率の高まり、新規採用者の抑制が懸念されるが。
市長 行政サービスを安定的に供給できる体制を確保し、年齢構成に偏りが生じ

ないよう定員管理を検討している。
なかやま荘の活用
問 なかやま荘と周辺公共施設の活用方針は。
市長 宿泊施設については民間業者への公売、譲渡を検討している。

問 中山ラグビー場や周辺用地をオートキャンプ場に有効活用し、観光誘客を図るべきと考えるが。
市長 スポーツ合宿などスポーツツーリズムを推進し観光資源との連携による延泊につながる取り組みにより、経済効果拡大を図る。

大雨被害の対策は
問 8月の大雨浸水被害による農家の救済策を伺う。
市長 加入状況、被害程度による農業共済による補償制度がある。農業施設、農地は小規模災害復旧事業補助金により対応していく。



くどうりゅういち
工藤隆一 議員
(八起会)



田頭館山公園の施設管理

市総合計画で計画的修繕



田頭館山公園の本丸橋

問 本丸橋が経年劣化により欄干に穴やひび割れの箇所が見られる。早めの修繕が必要では。
市長 前回の修繕から16年経過しており、市の総合計画の実施計画へ登載し、計画的に修繕を行いたい。

手山を望む崖側が危険である。安全第一を考えて柵の設置が必要と考えるが。
建設課長 頂上の奥は、設置が困難。今後の対策について、環境美化委員会や文化財保護審議会と検討する。

問 支援の内容は、コミバス運賃を1年間半額だけである。タクシーや県北バス、市内の共通商品券など、利用者が増える制度にするべきでは。
まちづくり推進課長 返納者が増えている状況も鑑みて、検討する。

公用車ヘドライブレコーダー設置を
問 ドライブレコーダーを市内の防犯や交通安全の面からも、交通安全車両や公用車に導入しては。
総務課長 事故防止や事故が起きた時の証拠にもなる

ため、計画的に導入する。
新型コロナウイルス対策
問 小中学校での感染拡大防止策や熱中症対策は。
教育長 衛生管理マニュアルに沿って、換気しながらエアコンを使用し、屋外では、密を避けマスクを外す。

免許返納者支援



井上辰男 議員
(八起会)



雹・大雨による農業被害

来年肥料高騰対応を検討



降ひょう被害を受けた水稻

問 多くの農家は収穫し販売した収益が次年度の作付け資金となり、継続した農業経営が成り立つ。災害により収穫できないと深刻な問題となる。肥料などの高騰が懸念されるが対応は。

副市長 次年度の作付けに影響がないよう状況を見ながら、どう対応できるか、今後検討する。

問 赤川の河道掘削などの対応について伺う。

市長 河道内の立木伐採や堆積土砂の排除など、県と連携を図り、災害の未然防止に努めていく。

問 倒木による道路や民家

への被害と対応を伺う。

市長 市道への倒木被害が8件発生した。車両通行に支障がある場合は、早急な撤去作業に努めている。

問 平笠地区水源地崩落の今後の対応策を伺う。

上下水道課長 過去に国の水源調査で掘削した井戸を

活用できないか、現地調査を行っている。

ハロウ校との交流

問 交流に際し、コロナ感染症対策はどう対応するか。

市長 市民と同様、基本的な感染防止策をハロウ安比校側にも周知していく。

問 市産食材の安定的な提供は可能か伺う。

市長 米や肉は可能だが、野菜などは収穫期があり安定的な提供は難しい。

問 交流は生徒の意見も取り入れていくのか伺う。

教育長 生徒の意見は、大切な視点と考えている。



高橋悦郎 議員
(日本共産党)



施設建設の単価高額では

建設環境の違いもある

施設名	事業内容	建設費	延床面積	建設坪単価
大更駅前づくり施設	平成24年3月に公表した事業化の設計(仮設計)	5.6億円	727坪	77万円
	平成31年3月に公表した概算設計(仮設計)	13億円	968坪	134万円
	令和3年1月に公表した概算設計(4階建て)	22億円	1,265坪	174万円
八幡平市立病院	令和2年完成(一部2階建て)	41.7億円	1,913坪	216万円
松尾総合保育所	令和2年完成(平屋建て)	8.5億円	481坪	177万円
ヤハーク(矢巾町の図書館)	平成27年完成(3階建て)	13億円	1,082坪	120万円
新盛岡バスセンター	現在建設中(3階建て)	14.2億円	1,537坪	92万円

各公共施設の建設坪単価表

問 大更駅前顔づくり施設は平成31年の3階建て構想では、建設坪単価134万円。昨年公表した新たな構想では、4階建てで建設費22億円になり、建設坪単価174万円。どうして建設費単価が跳ね上がるのか。

商工観光課長 こちらから

設計業者に金額を提示したものではありません。設計段階で積み上げた金額である。

問 ちなみに、松尾統合保育所の建設坪単価は177万円。市立病院の建設坪単価は218万円。いずれも県内の公共施設建設の平均坪単価よりかなり高額だが。

市長 顔づくり施設については、実施設計に入る前に、事業費も含め再度議会に示すので議論いただきたい。

問 小中学生の一人一台タブレット環境下の中で、公立図書館と連携した電子図書貸し出しサービスが、児童生徒の勉強の補完に有効

であると言われているが、教育総務課長 学校教育の補完に有効であると認識している。参考見取りを取ったところ、初期投資を除き年間千冊の電子図書導入で570万円ほどであった。

問 電子図書サービスは、図書の検索が簡単で、図書

館に行かなくても借りたり返却ができ、障がいのある方や高齢の方にも、非常に有効である。電子図書サービスの充実を図り、現在の図書館を有効活用すべきだ。

教育長 新図書館という施設があつて、電子図書の導入を考える。



古川津好 議員
(松西会)



駅前賑わいづくりの責任

全て入るよう取り組む



出店が望まれる大更駅前

問 大更駅前のにぎわいづくり施設に隣接する商業用地の販売が進まないが、結果責任をどう考えるか。

市長 商工会、関係する事業者などに打診しながら進めたい。売れ残ったときにはテナントとして整備し、区画全てに入るよう取り組み

む思いでいる。

問 存続が危ぶまれる花輪線の利用客が減少すると大更駅前のにぎわいにも影響すると思うが、新幹線が通る隣の沼宮内駅、栗石駅と比較してどう考えるか。

市長 駅舎に付随するものではなく、大更駅前の魅力

ある商店街、にぎわい創出の核となる施設で、2つの駅とは目的が違う。

1億6千万円の寄付が及ぼす効果

問 なぜ高額所得者の子どもが入学するハロウ校に、多額の寄付が必要か。

市長 交流により子どもたちの国際化の意識の高まりと経済的には固定資産税や市民税の税収が見込まれる。

問 ハロウ校の建物やホテルの建物への投資が中国資本によるものであれば、類似の北海道ニセコ地区で起きている。いろいろな問題

についての状況調査も市として必要ではないか。

市長 倶知安町、ニセコ町の状況は理解している。一度は、現地を見たいと思う。安比地区の開発の方向性が市の認識と相違する場合に意見を申し上げ、いい方向に進めるようにしたい。



くまざわ ひろし 議員
熊澤 博 (自由クラブ)



若い世代のワクチン接種

30代以下の接種率は64%



オミクロン株対応ワクチンの接種

問 新型コロナウイルスの感染拡大が、いまだに終息していない。厚労省による新型コロナの新ワクチン承認へ市の防疫体制の展開は、健康福祉課長 対象者は1・2回目接種を完了した12歳以上の全市民となる。

答 ついて小児科学会は、メリットが大きいと判断し、これまでの「意義がある」から「推奨」へと変更したが、健康福祉課長 3回目の追加接種が決定した。保護者本人が話し合い、納得した上で、決めてほしい。

から子どもの熱性けいれんや急性脳症の発症が増えていく。インフルエンザも同様の症状で、日本の場合、2019年に20歳未満の人が65人も亡くなっている。ワクチン接種で合併症を減らすべきではないか。

健康福祉課長 リスクを減らすため、保護者に厚労省のホームページのQ&Aを紹介していきたい。

帰帰・移住の対策

問 1ターンの中心世代は「ゆとり教育世代」の20代・30代で、結婚や出産を機に帰郷、移住という可能性が

高いとされる。出産祝金50万円の市長提案は時宜にかなっていると考えらるが。

市長 人口移動の月毎の社会増減はプラスに転じた。結婚による転入が増えている。起業して転入する方も増えており、支援センターの増設も必要と考えている。



さいとう たかお 議員
齊藤隆雄 (日本共産党)



通学定期代の補助率拡充

現在の購入補助支援継続



J R花輪線田山駅

問 通学定期代の負担が大ききく、半額の補助を求める声がある。経済負担が大ききく、引越している世帯もある。子育て支援の観点からも拡充について伺う。

答 がら、限られた財源の中で優先的に通学定期補助率拡充を打ち出すのは難しい。500万円弱で10%が20%の拡充になるが。

市長 現在の10%でも千数百円の経済支援になるが、移住の観点からは、転出を止まるところまで、至って

いない。総体的な観点から考えていく必要がある。

農業支援の拡充

問 農業機械導入への助成継続のほか、高額な機械導入の支援が必要である。予算の増額が必要と考えるが。

市長 農家の皆さんから継続希望の声をいただいている。後期総合計画実施計画の協議で検討する。

放送が聞こえない

問 防災行政無線放送が聞こえないという声が市内各地からある。伝わらない方への伝達手段は。

市長 避難情報をスマートフォンというシステムを活用し、テレビ画面にL形の災害情報を表示する方法や携帯4社と締結し、緊急速報メールを発信している。音量やスピーカーの向きなどの調整で難聴解消に対応している。



くどう たひろ 議員
工藤多弘 (松西会)



顔づくり施設の見直しを

にぎわい創出で市政発展



市民の声を聞き検討を(大更駅前)

問 「物価が上がり、大変です。大更駅前の施設に多額の税金を投入するより、困っている市民を助けたい」と市民の声があるが。

市長 困っている市民の声にも寄り添っていく姿勢でいきたい。一方、大更駅前面つくり施設を整備すること

とで、大更駅前にぎわい創出によって市勢の停滞を食い止めるため、両方必要であると思っている。

問 移転を見直し、既存の図書館を修繕してはどうか。

市長 改築では対応できない。利便性が良い駅前に移転し、市民が利用しやすい

よう、今以上に利便性を高める目的で整備する。

問 カフェや物販の具体的な運営内容、業者はどのようになっているのか。

市長 カフェや物販を委託するかは、今後、検討していく。1階の配置は、いろいろな考え方があり全て入

避難場所のトイレ

問 災害時に日常使用している水洗トイレに近い環境を迅速に確保するためマンホールトイレを設置しては

れるとなれば手狭な形になるため、利用しやすい環境を整理している段階である。

市長 下水道に直接汚物を流すため、くみ取り不要で衛生的だが、地震により下水道が破損した場合は使用できない。また、下水道本管に接続する排水管やし尿貯留槽の整備が必要で、総合的に勘案して、投資効果は薄いと考える。